

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう  
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ  
あかるい家庭を きずきましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの  
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい  
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる  
若い力を のぼしましょう

一中地区市民委員会

# 亀城

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成26年10月15日(水)  
 事務局：一中地区公民館内 TEL: 029-821-0104  
 世帯数 9,003戸 人口 19,972人(平成26年9月1日現在住民基本台帳による)

## 土浦小学校

### 節目の年



一中地区市民委員会  
委員 砂村 正人

平成二十六年は、土浦小学校百四十二年という長い歴史の中でも節目となる年になりました。一つは新校舎の完成です。二月から新校舎での生活が始まり、子供たちは生き生きと学校生活を楽しんでいます。新校舎の特徴は木をふんだんに使っていること、一階から二階に上がる大階段と吹き抜けを中心に広々としたオープンスペースがあること、各教室は従来の教室に比べると一・四倍ほど横に広く、水道が引かれ給食の配膳ができるようなスペースがあること、そして冷暖房が完備されていることです。一階のオープンスペースは、ちよつとした集会を開くことができます。金管バンドやたまき合唱団がミニコンサートを開き、素敵な演奏や歌声を披露してくれました。またこのスペースは、非常時に避難場所としても活用できるようになっていきます。夏休みには四年生から六年生に一週間、「学びの広場」という算数を中心とした補習を行いました。各教室は快適な室温が保たれ、集中して学習することができました。また三階にある多目的室では、学年集会や懇談会を開くことができます。先日はPTA図書委員会の主催で二年生を対象とした紙芝居が演じられました。このように土浦小学校では、新校舎の特

長を生かして伸び伸びと教育活動を展開しています。十月には立派な外壁と門が完成し、あとは校庭の完成を待つばかりです。来年の二月には竣工式を行う予定です。

もう一つは宍塚小学校との統合です。宍塚小学校は三月に百三十六年の歴史を閉じました。それに伴い、宍塚、矢作、飯田、佐野子、粕毛の地区の皆さんが土浦小学校の仲間になりました。年度はじめは慣れないスクールバスでの通学や、大人数の中での生活に戸惑いもあったようですが、今ではたくさん友達もできて楽しく学校生活を送っています。土浦小学校には「余らず欠けず只一輪」という「たまきの教え」があります。いつでも、だれとでも仲良く助け合う心を大切にしたいという教えです。今こそこの教えに立ち返り、児童、保護者、職員はもちろんな地域の皆様も一緒になって大きな輪をつくり、ともに歴史を刻んでいければと願っております。

(筆者は土浦小学校の校長です)

## わが町・桜川不動尊の恩恵



一中地区市民委員会  
委員 加藤 勝雄

港町一・二丁目目土浦駅東に面した一帯を桜川に沿って霞ヶ浦方面へ向かった、約八百世帯を擁した旧田園地帯です。七十歳以上の高齢者が約百人、中学生以下の子ども達は八十人程度である。今は農地も少な

く、昔の面影を見出すのは難しい。駅前大通りを二辻先を左へ入った児童館の横に御堂がある。表題の「桜川不動尊」である。不動尊とは何でしょうか。色黒く、眼を怒らし、左眼を細く閉じ、右上唇を咬み、右手に降魔の剣を持ち、左手に縛の索を持ち、常に大火災の中にあつて石上に座する。簡単にいえば、正義を讃へ、悪を叱る。見かけによらず、心やさしき明王だそう、それが不動さんです。今では、宗派・教義を超越して、まさに人々の「心のよりどころ」として敬われています。以前に有志が集い、不動講をつくり、不動尊を奉祀してきたそうです。

現在も継承して、毎年一月末の日曜日に「桜川不動尊祭・港祭り」として、町内老若男女が児童館に集います。「子ども育成会」や「青年の港会」、高齢者会の「港和会」などが協力して異世代交流を図っています。祭りは、近隣町会諸氏の参加も願って、僧侶の読経、参加者の焼香・合掌礼拝。そして、児童会館では、児童の絵画作品の展示・優秀作品の表彰、小学六年生への感謝状贈呈(引率登校のお礼等)、餅つき、焼きそば、昼食作り等々(当然酒類も豊富だ)、懇談・会食。祭の最終は、ビンゴゲームやくじ引き(一等高級自転車等)で、ごりやくを頂いて閉会。その貴重な御堂の鍵をこじ開けて、お賽銭を盗む輩もいる。この世の中で、正義と不正義について、お不動さまは如何に裁くのかお迷いでしょう。法律違反だけでは善と悪の差別は出来まい。道徳違反の部分を如何に論し、どう導くのか。考えて

みれば、学校では道徳教育や神話教育を推進しようとしている。それを総合的なしつけ教育へと高めることは、学校だけでは出来得る分けでもない。土浦市では、快適で安心・安全な「日本一住みやすい」町づくり、を目指している。だが、社会の安全は、法と警察だけで守れるものではなく、個人の内なる道徳感情が不可欠だろう。道徳は議論によって決まる法律よりも強く、人を喜んで社会に順応させる力である。無条件の規制力である。必要なのは、神仏に対して素直に手を合わせる、その心である。まずは大人たちの心の片隅に「聖なる空間」を創ることであろう。神仏との対話の空間と云える。その心のあり様が、子ども達に伝わって、子ども達の人格の芯を育てる美徳となるのである。子ども達にとって、目に見えないものへの恐れほど生き方への重石はない。その役目をお不動様も果たすであろう。人生で大切なものほど、目に見えないものである。祈りは人の心を浄化する。

(筆者は今港町一・二丁目地区長です)

## 市民委員会 専門部の活動

### 環境部の活動

### ゴミの減量と

### リサイクルについて

「循環型のまちをめざして」

部長 伊藤 宏

ゴミの問題は私達日常生活の上で切り離して考える事は出来ません。

市の統計資料によれば平成二十四年度のゴミの排出量は六万一千六五三トン内訳は家庭用からのもの四万二千七一トン 企業からのもの一万八千八百二トンです。

この数字は平成二十一年度七万二千八四トンをピークに減少に向かっておりましたが二十三年二十四年で横ばいが続いておりましてがやや上昇の方向に向かっております。ちなみに六万一千〇〇〇トンという数字だけではどのくらいの量なのかピンときませんがゴミ収集車で約一万九〇〇〇台分になります。ゴミの処理金額は二十億円 市民一人あたり一万五〇〇〇円に相当するとの事です。

市の財政負担の大きな要因となっております。

土浦市の一人一日当りのゴミの排出量は県平均、より多く又、リサイクルの割合も県・国の水準より低く残念な数字となっております。

このような状況を打開するには我々一人一人が次の事に心掛けが必要と思われまます。

- ① 買い物の時はマイバックを持参
- ② 物を大切に使う
- ③ リサイクルに協力する
- ④ ゴミ出しのマナーを守る  
(分ければ資源、混ぜればゴミ)
- ⑤ 食べ残しをしない

土浦市が平成二十七年四月より実施いたします「生ゴミと容器包装プラスチックの分別」を成功させるためには市民一人一人のゴミに対する理解と協力がなければ良い結果を得る事は出来ないと考えます。

一中地区の環境部の皆様方には、

日頃各種行事に参加ご協力して頂き感謝致しております。  
本年度は特にゴミ問題に関心を持って取り組み努力したいと思っております。

### 安全部の活動



部長 木村 勝美

本年度安全部の事業計画は①救命救急講習会②公民館まつりへの参加・協力③視察研修④防犯運動のほり旗の作成です。まだ本年度の事業を行っておりませんので、昨年以前の事業をご紹介します。

### ①救命救急講習会

「いざ」という時に少しでも命を守れたら、が目的です。昨年十月に土浦消防署員の方がお越し下さり、AEDの講習会を実施致しました。年一回の講習でもあり忘れてしまったり、少しずつ要領が変わって来たりという事もあり、皆様方熱心の実施され、地域に役立てられればとの思いで受講されておりました。

### ②公民館まつりへの参加・協力

一中地区公民館まつりは今年十一月三十日(日)に行われる予定です。このイベントは毎年各部合同で行われる行事です。他の部では、色々な催物を行ない、一般来場者を楽しませております。その中で我が安全部は、駐輪・駐車場の整備を担当しております。今年も盛り沢山山の催で、皆様方のご来場をお待ちしております。

### ③視察研修

毎年一月頃視察研修がございます。近年各地に想定外といわれる自然災害が数多く発生し、甚大な被害をもたらしています。そんな災害の模擬体験が出来る、「本所防災館」という施設に一昨年行って参りました。ここでは、色々な体験が出来ます。地震の震度体験やモニターを使った消火体験、風速三十メートルの暴風雨体験が出来たり、局地的集中豪雨により、地下扉や車のドアが浸水により水圧がかかったとの想定でのドアの開放体験等が出来ました。  
昨年は「東京臨海防災公園」という施設に行って来ました。ここでは大震災の後、七十二時間あなたは、というアニメシネマも観たり、大地震にあつたばかりの模擬施設で、自分が成すべき事は、という設問に答えたり、身近な物で出来る防災グッズの展示を沢山見て参考にして参りました。  
④防犯運動のほり旗の作成  
これも毎年行っており、防犯のほり旗を百本作成し、各町内にお配りして少しでも犯罪の抑止につながればと願っております。  
本年度も三月頃に実施を致します。以上安全部からの計画及び報告です。

## みんなの広場

### キララ祭りに参加して

東崎町 小林 光代

ピーピー・ピーヒャラ・ピーヒャラ  
梅雨空を吹き飛ばすような甲高い

笛の音が聞こえてくる。今年も夏祭りの季節がやってきました。もうすぐ祇園やキララまつりがあるから、その練習だな、大変だなあ、でも楽しみだね。そんな他人事のように思っていました。

二十数年前に土浦に引っ越してきた当時、駅前通りは七夕飾りがとても華やかで見物客でにぎわっていました。豪華な七夕飾りの下を頭が触れないようにくぐり抜け歩くだけでも楽しいものでした。

近年は以前のような華やかさも薄れ、人も少なく寂しささえ感じていました。

まつりの楽しみは各町内の山車を見たり、露店で好きな物を買って帰るといって毎年お決まりのコースでした。

しかし、今年は防犯パトロール隊のパレードに参加する機会が訪れました。

集合場所の亀城公園に行く途中、小学生の金管バンドのパレードが始まるうとしていました。我が子の晴れ姿をカメラやビデオに写そうと必死の親御さん達の様子に自分の昔の姿を重ね懐かしい気持ちになりました。

各地区の防犯パトロール隊の方々も続々と集合してきました。私を含め、少々年齢を重ねた人が多く、しかも皆が同じ「のほり旗」を手にしている姿は、今まさに戦いにも行くのかと思わせるような光景でした。

亀城公園から駅前までのパレードでしたが、各地区を支えているであろう防犯パトロール隊員と歩みを共にし「オールドパワー健在なり」と

思って頼もしさを感じたのは私だけでしょか。

暑さの厳しいなか、「オールドパワー」で暑さも吹き飛ばし、キララまつりに参加したという実感から「安心・安全まちづくり」に少し貢献出来たかなと自己満足した2014年の夏祭りでした。

## サイパンの海

桜町四丁目 横山 光栄

戦に明け暮れた幼年期、仕事に没頭し泳ぐという観念も無いままに七十才を過ぎてからスポーツセンターで水泳を習い、泳ぐ事が出来る様になった。

父親がサイパンの海で戦死した旧友との二人旅。ホワイトサンドのパウパウ・ビーチで、小さな蟹を見つけたり、美しい貝殻を拾い集めて鎮魂を祈った。

ダイビングをする事になり水深一二米の海に潜った。勿論サイパンを代表するダイナミックな地形に潜る事は出来ないが、海中で可愛いトロピカルフィッシュが寄って来て餌は忽ち空っぽに。海底の白い砂地に膝を着き見上げる海は透明なブルーに輝きとても美しかった。

マツピ山の麓に広がる島北部には旧日本軍司令部のトーチカ。

洞窟では、避難していた百五十名の中学生が砲撃の犠牲に…。

自然が綴りなす荒々しくも美しい断崖絶壁の一角は、逃げ場を失った日本兵や民間人が、「生きて捕虜の辱めを受けず」と自決を選び、

「バンザイ」と叫びつつ紺碧の海に身を投げた悲惨な歴史を伝えている。

通称バンザイ・クリフの断崖の下は幻のスポットとも言われ、今は最上級者向けのポイント。ジンベイザメ・ナポレオンフィッシュといった大物に何故か遭遇すると言う。

## 社協中央支部の活動紹介

地域ケアコーディネーター 赤根 陽

社協福祉協議会(通称「社協」)は、社会福祉法に規定された、国・都道府県・市区町村単位で組織する、地域福祉の推進を目的とした、民間の社会福祉団体です。

その中で、社協中央支部は、一中地区公民館に事務所を置き、地区長さんや民生委員児童委員さんを始めとした住民の皆様の支援と協力により、誰もが住みやすいまちづくりを進めるため、福祉の総合相談や様々な小地域福祉活動を行っています。

社協中央支部の活動は、皆様からいただいている「社協会費」を財源として活動をさせていただいております。ここで、活動の一部をご紹介します。

### ◆福祉の総合相談

常駐の社協職員(地域ケアコーディネーター)が、子どもから高齢者まで幅広く福祉に関する相談を受け付けています。公民館に社協職員を配置しているのは珍しく、土浦市の特色です。

相談の中で、問題が複雑なケースについては、医療・保健・福祉の専門職が連携(チームケア)して、生

活の改善を図るために総合的に支援しています。支援を必要とする方だけでなく、その家族も支援する「ファミリーケア」を基本にして対応しています。

寄せられる相談の中で、最近特に多いのが認知症や精神に障害のある方に関する相談です。病気等が理解されず、地域から孤立してしまったり、近所トラブル、家族間の不平等が問題となっています。

社協中央支部では、障害等があっても、住み慣れた地域でその人らしく安心して生活できるように、関係機関だけでなく、可能な限り住民の皆様のご理解とご協力をお願いしています。

ご家族や地域の中で生活上の問題を抱えた方、心配など感じる方がおりましたら、遠慮なく社協中央支部までご連絡ください。

(相談受付時間)

火曜～日曜(月曜・祝祭日休み)  
午前8時30分～午後5時15分

## 「まかつしよ」について

中央二丁目 大久保 和男

何時ごろの記憶だろうか。寒い冬の節目の日に本町十時堂の四つ角で「ふんどしまき」が行われるので近所の友達と一緒に出掛けたのはいいが、上級生の勢いに押されて立ちすくんでしまい、後ろの方から見守っていたのを思い出します。

のちに、この習慣が「まあかつしよ」という男42歳、女32歳の厄落としの行事であり、土浦の民俗行事であることを知りました。節分の夜

に東崎町の鷲神社で追儺式を終わつた人々のうち厄年の人々が本町の四つ角で、かねて用意してきた年の数だけのお金を男はふんどしに、女は腰巻きに包んで投げるとこれにより厄払いができ、しかもこれを拾ったものは幸運が来るというわけです。もともと現在では、お金をテッシュで包んだり、そのまま、まくことがほとんどです。

10年ほど前、仲間のTさんより「まあかつしよ」が、土浦の民俗行事として奇祭である、これを残すために何らかの活動が出来ないかという提案があり、町内有志の組織である「親央会」が中心となって活動することになりました。

当初は、「まあかつしよ」が、車の往来のある四つ角で行われるので子どもたちが安全に拾うことが出来るように交通整理からスタートしました。その後、東崎町鷲神社につながる通りには提灯を吊り下げ、さらに東崎町にも呼びかけて同様に提灯を吊り下げ、四つ角の両端には鷲神社の提灯も飾るようになりました。四つ角の上には、鷲神社参道の横断幕が掲げられ、当日の雰囲気盛り上げていきます。また、寒い中、「まあかつしよ」に集まる子どもたち、参拝に通る人たちをふるまおうということ、熱いうどんを提供しています。つゆも毎年具材をかえてあれこれ考えています。

今では「まあかつしよ」も地域の行事として復活して、当夜には毎年50人以上の子どもたちが集まり、賑やかになっています。「親央

会」が中心となってスタートした活動に「町内会」も参加するようになり、これからも町内が一体となってこの民俗行事を残すよう活動していきたいと思えます。

**同好会だより**  
**サークル「ニイハオ」**

代表 石引 洋志

楽しく中国語を、月2回木曜日、午後2時から4時まで、土浦市生涯学習館で学ぶサークルです。

中国大連市出身の韓麗先生を囲んで、中国の歴史、文化、習慣、食生活などを含めて中国語の勉強をしています。

現在メンバーは、50〜60代の女性2名と男性3名です。

2020年の東京オリンピックで、中国語圏から来られるお客様に少しでもお役に立てたらと夢見ながら頑張っています。

新たなメンバーの参加をお待ちしております。

入会御希望の方は、0901-9858-4690 石引迄、又は、

0901-4599-15967 舟橋迄、ご連絡下さい。

お待ちしております。

0901-4599-15967 舟橋迄、ご連絡下さい。



**同好会だより**  
**書道の会 伯曇会**

会長 高安 公夫

書道入門講座

座「大人から始める書道」

を受講し、もう少し続けて

まずは自分の名前をきちんと書けるよう

になり、との願いを

かけて同好会を

結成し、昨年

一月から学習を始めました。

講師は大塚伯葉(博)先生です。

長年書道のご指導に当たられ、県内外の遺跡等の調査・研究もされておられる方です。

学習は月二回行い、一回目は先生

が書いて下さった手本の書き方について、ポイントを詳しく説明していただいでから練習に入り、先生が各席を回って個人毎に指導して下さいます。

二回目は家で練習してきた作品の指導を受けながら最後の仕上げをして審査に提出しますが、アアア!!!

という間に二時間が過ぎてしまします。

時には外に出て会食をした後、書の歴史や遺跡の文字に関するお話等の講義を頂けるのも楽しみです。

書道は書が上達するばかりでなく、あわただしい日常の中で本来の自分を取り戻せる時間になっているよう



に思います。あたたかくご指導くださる先生とともに、同じ趣味を持つ会員の皆さんと学べる幸せを、これからも大切にしてゆきたいと思えます。

**同好会だより**  
**ドイツ語同好会**

代表 根本 亮子

私たちがドイツ語同好会「クラランツ」は、川島淳夫先生のご指導の下、月に二回楽しくドイツ語の勉強会を催しております。

授業はテキストに沿った文法の学習から会話練習までバラエティに富んだものになっています。最初は基礎から入りますので、これまでドイツ語に触れたことのない方でも参加頂けると思えます。

最初は、中学生が英語を学び始める時のように挨拶の仕方や発音などを学びます。その後は文法学習に入っていきます。そして授業が終わる十二月には、始めた頃にはとても読むことができなかった難しい文法の入った文章も理解できるようになっていくような、そんなカリキュラムになっています。また、講師の川島先生はドイツ語以外の言語についても説明して下さるので、ドイツ語と日本語、ドイツ語と英語その他外国語の関係についても学ぶことができます。ですからドイツ語だけでなく、言語学についても興味ある方は、一度授業を覗いてみて下さい。

そして毎年十二月の授業では、シユトレンという甘いドイツパンをみんなで頂きます。美味しいパンを

頂きながら、これまで学んできたことやドイツの文化について語り合います。毎年の素敵なお楽しみとなっています。

ドイツにご縁のある方、ドイツ旅行を考えている方、何となく外国語を学んでみたい方：動機は何であれドイツ語に触れる機会を持ってみたい方は、是非「クララツ」にご参加下さい。ドイツ語は英語と違って気軽に学べる機会が少ないと思います。「クララツ」は穏やかに楽しく勉強

ので、ドイツ語に接するチャンスをご提供できると思います。ご興味のある方は是非気軽に授業にいらして下さい。

スケジュール  
毎月第二・四水曜日午後七時  
夏期休暇 八月  
冬期休暇 一〜三月



### 同好会だより ストレッチ体操を楽しむ会

代表 小林 一雄

私達の同好会は、平成十八年四月に誕生。いっしか八年の歳月が過ぎ去ろうとしています。

高齢化社会が進む中、私達グループの誰もが、いつでもどこでも生き生きと明るく美しく元気に過ごすことを合言葉に、講師の岡野先生の指導のもと、『ストレッチ』と『脳

トレ』体操に励んでいます。体操に先立ち、季節季節に即した体調管理や生活リズムへの対応など朝の挨拶から始まります。

『ストレッチ体操』では、椅子に座り、先生の掛声によって、全身の血流促進と関節や筋肉へのマッサージとストレッチにより、各器官機能の老化予防と活性化・末しよう神経でもある手足の指体操と応用動作。特に、第二の心臓とも呼ばれている足裏の入念なマッサージを行い、各臓器機能の低下予防にも力を入れています。

また、マットに横になり、全身の屈伸運動や股関節はじめ下肢のストレッチによっての転倒予防にも全力で取り組んでいます。

『脳トレ体操』では、脳機能の老化予防のため、二つの動作を同時に考えながら繰り返し行っているうちに、あやしい動作になり、一斉に爆笑。大笑いすることは、脳細胞も豊かになり、また、己ざと腹筋運動にも繋がっていると思われまます。

この体操の間、先生のラジカセから美しいクラシック音楽のメロデーが流れ、和やかな雰囲気の中での一時間三十分の時間が過ぎていきます。

運動することによって、快食・快眠・快便にも繋がりが、生活習慣病やストレス解消にも効果があると痛感しています。

体操は一人では絶対に無理、皆と一緒にだからできるとの声が囁かれています。

また、年二回程おしゃべりのタイムとして、食事会の席を設けるなど

会員相互の親睦にも心掛けています。現在の会員は二〇名うち男性は私一人、嬉しいことに女性の皆さんのパワーを一身に受け、楽しさいっぱいで奮闘しています。

私ごとになりますが、来年早々には八十八才。健康で過ごすことができるのも、ストレッチ体操のお陰と感謝しています。

運動は、万能薬と私は思います。ストレッチ体操を楽しむ会の実施日は、毎月第二・第四の木曜日午前十時から十一時三十分です。一度見学に訪れては如何でしょうか。



### 子ども達 それは地域の財産

一中地区チャレンジクラブ  
指導員 緑川 英男

市民委員会の中の青少年育成部の主たる活動として「チャレンジクラブ」があります。土浦第一中学校区の小学四年生から六年生、及び中学一年生に募集をし、選考を経て三〇名のクラブ員で活動を行っています。年間一〇回の活動計画があり、今年度は次のとおりです。

- ① 開講式とプラントーづくり
- ② 航空科学博物館と成田空港の見学

- ③ 霞ヶ浦サマースクールへの参加
- ④ SL乗車体験
- ⑤ 万華鏡と浮沈子の不思議体験
- ⑥ 筑波山登山
- ⑦ 公民館まつりのボランティア
- ⑧ マジックバルーンに挑戦



投網体験

⑨ チャレンジ連合音楽鑑賞会  
⑩ 太巻きづくりと閉講式  
子ども達の活動の様子を見ていると、個性がよくうかがえます。何事にも積極的ではあるが周りが見えない子。口数は少ないがしっかり考えている子。これら全ての子ども達が将来社会を担っていく存在となるわけです。

家庭の中で育てられ、学校という集団の中で培われ、そして地域の中でも見守りたい。それがチャレンジクラブの目的です。それぞれの活動にはねらいがあり、大局的には次の三つの育成を目標としています。

- ① いつも元気にあいさつをする子
- ② どんなところでも、友達を大切にすること
- ③ どんなことにも、思い切って挑戦すること

青少年育成部の正副部長さんの他、地域から推薦されてきた委員さんたちの力をお借りしながら、地域の財産となる子ども達を育てています。その様子の一端が、公民館の玄関に



S L 体験乗車

揭示してあります「チャレンジクラブだより」や「スナップ写真」でも分かりますので、公民館に来ていただいた折には足を止め読んでみてください。

# 飯田町紹介

飯田町 笹本 恒久

飯田は土浦の西部地区に位置し北側に桜川が流れ、田、畑に囲まれるような集落で農業が盛んな所です。世帯数は六十一戸で少子高齢化が進んでいきます。農業生産は米が主であるが、野菜、ハウス栽培も行われています。環境には恵まれた所です。一つ残念に思うことは、宍塚小学校が土浦小学校と統廃合により無くなったことです。少子化の為なので仕方ない事とおもいます。将来は子供たちも多くの友人を作り、スポーツも多人数で行え逞しく育ってくれると思います。

だけ残っている珍しい民俗行事で、市の民俗文化財に指定されています。昔はどこでも行われたようですが、「害虫の被害がひどかったので、村から害虫を追い出そう」という素朴な願いがこの行事になったのだろうと思われまふ。

小、中学生が竹の先に俵ぼつちをつけ「どうがんだ、どうがんだ、油虫どうがんだ、ザーザーと降ってこー」と叫びながら桜川まで歩き竹と俵ぼつちを川に流すのです。公民館に帰ると、おやつとお小遣いが待っています。町内の一大イベントが一つ終わります。

十一月三日はマチ一日待、月待の待であり、また祭りの代名詞としても使われるが、特に秋の特別な祭を指すことが多い。赤飯を炊き甘酒を作るのが特色である。明神様の祭です。朝七時花火が上がり行う合図になります。

十二時の花火は開始の合図になります。三神社(三高、鹿島、諏訪)にお神酒、餅、山の物、海の物、農産物を供え神主さんに祝詞をあげてもらい総代、区長、常会班長、翌年の役員さんの順で玉ぐし奉天を行った後、公民館に集まり宴会が催されます。マチが終わると師走、正月の準備となり、一年が終わります。



参考文献 土浦市史 民俗編 土浦町内誌

## 短歌

スパーに切り花あふれる彼岸時花屋とはまた違うにぎわい  
無花果のひねり出たよな実が割れてむっちり熟した今日は食べ頃

片ほとりわが影淡くひそませて今日も名残の刻きざむなり  
虫掛 柴沼 恭子

やわらかに合歡の花咲きくれないの記憶のこして葉を閉ざすべ  
東崎町 荒木富美子

昨夜の雨に散りたるままの金木犀小径一面染めて明るし  
生田町 金丸 玉貴

季くれば忽然とでて秋告ぐるごんしやんごんしやん彼岸花燃ゆ  
大和町 瀬古沢和子

パンケーキ女兒と手づくり毒添えふんわり練り込むはじける笑顔も  
田中一丁目 井上 寛江

夏帽子深くかぶりてバスを待つ  
中央一丁目 櫻井 雅江

対岸も負けじと螢呼ぶ夜かな  
七夕や髪を染めにし孫踊る

田口よし子  
根本さた子

大皿にこぼれんばかりさくらんぼ  
密集の庭の青紫蘇出番待つ

深谷 由子  
藤川 祐子

仕事場へ信号待ちの桐の花  
遠き日の鉦の音やかき氷

矢野 澄枝  
梅雨寒や下戸も連れだち縄のれん

矢野 澄枝  
螢火のとび交う闇に子等の声

矢野 澄枝  
若松 明子

### 桜町二丁目さくら俳句会作品抄(七月八月の句会の作品より)

荒木小夜子  
糸賀 孝雄

### 編集後記

役員・専門部・同好会から日頃の活動状況報告など、より充実した内容となりました。ご寄稿頂いた皆様には編集一同心より感謝申し上げます。

(今回の編集に携わった方々)

- 大槻 正義 桜井 昌子
- 犬山 京子 岡部 恒文
- 新井 幸男 齊藤 岑生
- 小野村一博 進士 武之
- 田中久美子

土浦市民憲章

昭和50年12月23日制定

- 1. 互いに信じ 助けあう  
あたたかいところをそだてましょう
- 1. からだをきたえ 仕事にはげみ  
あかるい家庭を きずきましょう
- 1. 自然を愛し 水とみどりの  
きれいなまちを つくりましょう
- 1. 知性を高め 教養をつちかい  
文化のみりを ひろげましょう
- 1. 伝統をふまえ 未来をみつめる  
若い力を のぼしましょう

一中地区市民委員会

# 亀城

発行・編集者：一中地区市民委員会・文化広報部会 発行日：平成26年10月15日(水)  
 事務局：一中地区公民館内 TEL: 029-821-0104  
 世帯数 9,003戸 人口 19,972人(平成26年9月1日現在住民基本台帳による)

## 土浦小学校

### 節目の年



一中地区市民委員会  
委員 砂村 正人

平成二十六年は、土浦小学校百四十二年という長い歴史の中でも節目となる年になりました。

一つは新校舎の完成です。二月から新校舎での生活が始まり、子供たちは生き生きと学校生活を楽しんでいます。新校舎の特徴は木をふんだんに使っていること、一階から二階に上がる大階段と吹き抜けを中心に広々としたオープンスペースがあること、各教室は従来の教室に比べると一・四倍ほど横に広く、水道が引かれ給食の配膳ができるようなスペースがあること、そして冷暖房が完備されていることです。一階のオープンスペースは、ちよつとした集会を開くことができます。金管バンドやたまき合唱団がミニコンサートを開き、素敵な演奏や歌声を披露してくれました。またこのスペースは、非常時に避難場所としても活用できるようになっています。夏休みには四年生から六年生に一週間、「学びの広場」という算数を中心とした補習を行いました。各教室は快適な室温が保たれ、集中して学習することができました。また三階にある多目的室では、学年集会や懇談会を開くことができます。先日はPTA図書委員会の主催で二年生を対象とした紙芝居が演じられました。このように土浦小学校では、新校舎の特

長を生かして伸び伸びと教育活動を展開しています。十月には立派な外壁と門が完成し、あとは校庭の完成を待つばかりです。来年の二月には竣工式を行う予定です。

もう一つは宍塚小学校との統合での歴史を閉じました。それに伴い、宍塚、矢作、飯田、佐野子、粕毛の地区の皆さんが土浦小学校の仲間になりました。年度はじめは慣れないスクールバスでの通学や、大人数の中で生活に戸惑いもあったようですが、今ではたくさん友達もできて楽しく学校生活を送っています。土浦小学校には「余らず欠けず只一輪」という「たまきの教え」があります。いつでも、だれとでも仲良く助け合う心を大切にしたいという教えです。今こそこの教えに立ち返り、児童、保護者、職員はもちろん地域の皆様も一緒になって大きな輪をつくり、ともに歴史を刻んでいければと願っております。

(筆者は土浦小学校の校長です)

## わが町・桜川不動尊の恩恵



一中地区市民委員会  
委員 加藤 勝雄

港町一・二丁目土浦駅東に面した一帯を桜川に沿って霞ヶ浦方面へ向かった、約八百世帯を擁した旧田園地帯です。七十歳以上の高齢者が約百人、中学生以下の子ども達は八十人程度である。今は農地も少な

く、昔の面影を見出すのは難しい。駅前大通りを二辻先を左へ入った児童館の横に御堂がある。表題の「桜川不動尊」である。不動尊とは何でしょうか。色黒く、眼を怒らし、左眼を細く閉じ、右上唇を咬み、右手に降魔の剣を持ち、左手に縛の索を持ち、常に大炎の中にあつて石上に座する。簡単にいえば、正義を讃へ、悪を叱る。見かけによらず、心やさしき明王だそう。それが不動尊さんです。今では、宗派・教義を超越して、まさに人々の「心のよりどころ」として敬われています。以前に有志が集い、不動講をつくり、不動尊を奉祀してきたそうです。

現在も継承して、毎年一月末の日曜日に「桜川不動尊祭・港祭り」として、町内老若男女が児童館に集います。「子ども育成会」や青壮年の「港会」、高齢者会の「港和会」などが協力して異世代交流を図っています。祭りは、近隣町会諸氏の参加も願って、僧侶の読経、参加者の焼香・合掌礼拝。そして、児童会館では、児童の絵画作品の展示・優秀作品の表彰、小学六年生への感謝状贈呈(引率登校のお礼等)、餅つき、焼きそば、昼食作り等々(当然酒類も豊富だ)、懇談・会食。祭の最終は、ビンゴゲームやくじ引き(一等高級自転車等)で、ごりやくを頂いて閉会。その貴重な御堂の鍵をこじ開けて、お賽銭を盗む輩もいる。この世の中で、正義と不正義について、お不動さまは如何に裁くのかお迷いでしょう。法律違反だけでは善と悪の差別は出来まい。道徳違反の部分を如何に論じ、どう導くのか。考えて